
村上君とAKB

村上氏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

村上君とAKB

【Nコード】

N8394Y

【作者名】

村上氏

【あらすじ】

学園と恋愛と青春とAKB物語始まる

プロローグ（前書き）

これからコツコツ頑張って行きます。

AKBが好きな方は楽しめると思います

プロローグ

僕の名前は村上将也

ここ秋葉原第一高校の新生だ

母「ほら起きなさい、遅刻するわよ」

僕は急いで飛び起きた

適当な物を食べて、支度をすませた

村上「まだ30分近くあるや」

?「あー!!寝坊だ!」

村上「なんだい、騒がしいな」

?「ごめんごめん」

この人は僕の兄の涼太

秋葉原第一高校の二年生

そして兄と一緒に家を出た。

?「あつ涼太」

このひとは兄の同級生の高橋みなみ

ここだけの話付き合ってるらしい

高橋「一緒に行こ」

村上「また一人ぼっちか」

村上「あっここか」

テクテク

そこには、綺麗な校舎があった

出会い（前書き）

さっそく二話めです

AKBを知ってたほうが楽しめます

出会い

村上「えーとここが1年A組かな」

ガラガラ

村上「あれ？まだ誰も来てないのかな？」

？「あつ早いね君」

村上「おはようございます」

？「よろしく、私の名前は秋本だ、よろしく」

村上「自分、村上つていいいます」

秋本「あー村上君ね、よろしく」

？「あれっもう誰がいる！」

秋本「えーと君はー」

峯岸「峯岸みなみです」

秋本「よろしく」

そこから少しずつ人が集まってきた

秋本「よし皆集まったから自己紹介タイムだ」

秋本「まず北原」

柏木「柏木です、よろしくお願いします」

指原「指原です、アイドルとか好きです」

秋本「次村上！」

僕は窓側の後ろだったので、一番最後に呼ばれた

村上「村上つていいいます、ゲームが好きです」

？「(かっこいいなー)」

村上「今日は初日だったしなにもなかったなー」

？「あの一」

村上「えっ？」

？「一緒に帰りませんか？」

いきなり(前書き)

最初のほういろんな人でできます

いきなり

?「一緒に帰りませんか?」

村上「えっ?」

渡辺「あっ同じクラスの麻友です。」

村上「渡辺さんか」

村上「別にいいよ」

渡辺「ありがとうございます(やったー)」

渡辺「村上君ってアニメとか見る?」

村上「興味はあるけどよくわかんないんだよね」

渡辺「じゃあ家にきませんか?」

村上「えっ?」

渡辺「いきなりすみません」

村上「じゃあいこうかな」

渡辺「いいんですか? やったー!

村上「じゃあ準備してから行くよ」

ガチャ

村上「母さーん・・・あれ? いないのかな」

涼太「母さんならいないよ、なんか用事?」

村上「いやちよっと今日遊び行くんで」

涼太「何だ? 彼女か?」

村上「違うよ!、もう行くわ」

ガチャ

村上「渡辺さん家はーここか」

渡辺「あっ村上くーん」

村上「待ってたの?」

渡辺「まあ入る!」

村上「すごいアニメ一色だね」

渡辺「ささ座って」

渡辺「はいお茶とお菓子」

村上「ありがとう」

渡辺「そういえばゲーム好きっていったよね」

村上「うん」

渡辺「秋葉原とかいく？」

村上「うん」

渡辺「気が合いそうだね」

村上「あーそういえば」

無題（前書き）

自分とこの人付き合わせてーとかOKですんで

無題

村上「そういえば、なにする?」

渡辺「あっそうでしたねアニメDVDとかみませんか?」

村上「そうだね」

渡辺「これオススメのやつなんですけど」

村上「どんなやつ?」

渡辺「ラブコメなんですけど* *」

村上「どうしたの?」

渡辺「とりあえず見ましょ* *」

村上「うっうん」

ポチッ

村上「面白いね」

・・・1時間後

渡辺「二人キスしそうですね」

村上「そうだね」

村上& amp ;渡辺「おっした* *」

村上「面白かったね」

渡辺「そうですね」

村上「お菓子食べて休憩しよ」

渡辺「そうですね」

渡辺「そういえば村上くん今日初日だけど気になる人いた?」

村上「どういう意味の気になるの事?」

渡辺「いやー好きって感じの* *」

村上「特にまだいないね」

渡辺「よかった* *」

村上「えっ?」

渡辺「いやなんでもないです」

渡辺「そっそういえば時間大丈夫ですか?」

村上「あついけない門限近いや」

村上「ごめんもう帰るや」

渡辺「そうですか」

村上「また続き今度見よ」

渡辺「はい」

村上「じゃあね」

渡辺「バイバイ」

僕は急いで家に帰った

兄ちゃん(前書き)

コメントとかいろいろお願いします

まだあまり書くの上手くないんですがよろしくお願いします

兄ちゃん

村上「はあはあもうギリギリだ」

僕は家のドアを開けようとした時

高橋「あれっ村上君じゃん」

村上「あれっ高橋さんどうしたんですか？」

高橋「涼太の家に泊まりにきたの」

村上「そうなんですかあっどうぞぞ」

僕は家のドアを開けて中へ入れた

高橋「ありがとね」

そういつて彼女は早々と兄の部屋にいった

村上「ふう、自分も彼女ほしいな」

そっいいながら自分の部屋に戻った

そして今日のご飯食べて風呂に入って寝床に入った

村上「んっなんか聞こえるぞ」

高橋「ねえ〜キスしようよー」

涼太「じゃあ」

チユッ

村上「なんだよ（怒）」

初の授業

村上「うーんもう朝か」

ガチャ

僕は部屋を出てリビングに向かった

村上「おっ兄ちゃん昨日の全部聞こえてたからな」

涼太「なーにーこのやる！」

母「ほら喧嘩しないで食べなさい」

村上「はいはい」

僕は食事と支度を済ませて家を出た

村上「行ってきます」

僕は家を出た

村上「今日は授業があるから楽しみだなー」

村上（ふっふっふっ実は僕自分で言うのもなんだが賢いのだ）

渡辺「あっ村上くん」

村上「あっ渡辺さんどうしたんですか」

渡辺「一緒に行きませんか？」

村上「いいよ」

村上「じゃっ行」

5分後

渡辺「そういえば今日から授業で不安ですね」

村上「そーいうの苦手なの？」

渡辺「そーいう村上くんはどうなんですか」

村上「自信ありますよ」

渡辺「なんの教科が得意なの？」

村上「計算と科学だよ」

渡辺「賢そうですね」

話をしてる内に学校についていた

魅力

ガラガラ

指原「あつ村上くん！」

柏木「おはよー……」

村上「おはよー」

指原「あれ？なんでまゆちゃんと来てるの？」

村上「家近いんでね」

大島「怪しー」

秋元「はいはい静かに」

村上「もう来たや」

秋元「今日は1委員会決め2部活決め3語学4科学5歴史6数学だ」

秋元「まず委員会決めだ黒板に書いとくから皆と相談して決める！」

渡辺「村上くん委員会どうする？」

村上「図書委員かな」

渡辺「じゃあ私もそうしようかな」

柏木「じゃあ私も」

指原「じゃあ私も」

渡辺& amp; 柏木「どうぞどうぞ」

指原「じゃあもうっよ」

柏木「しまった！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8394y/>

村上君とAKB

2011年12月7日00時53分発行